

科学技術に関する調査プロジェクト報告書3点を刊行しました

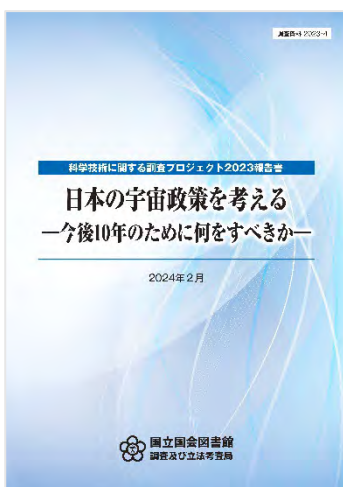
- 『日本の宇宙政策を考える—今後10年のために何をすべきか—』
- 『デジタル時代の技術と社会』
- 『マテリアル科学—最先端と未来への選択肢—』

国立国会図書館調査及び立法考査局は、科学技術分野に係る重要な国政課題の中から特定のテーマを選定し、外部の専門家と連携して調査・分析を行う「科学技術に関する調査プロジェクト」を、毎年度実施しています。

この度、令和5（2023）年度のプロジェクトの成果として、次の3つのテーマについて、当館職員による調査や大学研究者等への委託による調査等の結果を取りまとめた報告書を刊行しました。

- 👉 『日本の宇宙政策を考える—今後10年のために何をすべきか—』
- 👉 『デジタル時代の技術と社会』
- 👉 『マテリアル科学—最先端と未来への選択肢—』

各報告書とも、テーマ分野の基礎的情報から関連する論点・課題までを幅広く調査・分析し、正確な情報を基に、客観性・中立性に配慮した上で、分かりやすく取りまとめるよう努めました。各テーマにおける課題を理解する一助として、是非御活用ください。



■ 『日本の宇宙政策を考える—今後 10 年のために何をすべきか—』 (調査資料 2023-4)

本報告書は、令和 5 年 9 月 22 日にオンライン開催したシンポジウムの記録集です。令和 5 年 6 月に改定された「宇宙基本計画」や初めて決定された「宇宙安全保障構想」等を踏まえ、日本の今後 10 年の宇宙政策の最優先目標について、有識者による議論を通じて展望した内容をまとめました。橋本靖明氏、小笠原宏氏、佐伯和人氏、竹内悠氏、小塚荘一郎氏による報告、渡邊浩崇氏による問題提起に加えて、パネルディスカッションの記録及び渡邊浩崇氏による解説を掲載しています。

■ 『デジタル時代の技術と社会』 (調査資料 2023-5)

デジタル技術の活用と浸透が社会の多方面で進み、私たちはその利便性を享受する一方で、デジタル化の進展によって、アナログの時代には直面することがなかった新たな課題が浮かび上がっています。また、技術の一層の活用のために、各種の制度や慣行の見直しが必要とされています。急速に開発・活用が進む生成 AI の動向も見逃せません。本報告書では、議会におけるオンライン議事の動向、デジタル影響工作、インターネットの分断、地方自治体における AI の活用、米国の情報通信技術の研究開発政策、ネットいじめへの技術的対応と法的規制、オンライン診療、デジタルデータの相続、生成 AI の倫理的・法的・社会的課題について、学識経験者の御助言、御指導を受けつつ、分析・整理を試みました。

■ 『マテリアル科学—最先端と未来への選択肢—』 (調査資料 2023-6)

マテリアルは現代の生活、産業の土台であり、マテリアル科学は我が国の国際競争力の源泉として力を発揮してきました。近年は、環境問題などに対応する高機能な材料開発が期待され、経済安全保障の確保、責任ある資源調達の観点からもマテリアル科学の重要性が強く認識されています。一方、国際的には我が国のマテリアル科学力の相対的な低下が指摘されています。本報告書は、マテリアル科学の現状を分析し、未来への選択肢を探るために、各国のマテリアル科学の振興策、最新動向、特に研究開発のデジタル・トランスフォーメーション (DX)、国際的視野から導かれる資源問題の留意点、ウェルビーイング向上を阻むマテリアルの性能劣化について、第一線の研究者が、文献調査、有識者ヒアリング、現地訪問などにより分析したものです。

■ 入手方法

国立国会図書館のホームページに PDF ファイルで全文を掲載しています。

URL: <https://www.ndl.go.jp/jp/diet/publication/document/2024/index.html>

国立国会図書館トップ > 国会関連情報 > 『調査資料』 > 2024 年刊行分

■ お問い合わせ先

国立国会図書館 総務部総務課広報係 電話：03-3506-5103 (直通)

(参考) 調査及び立法考査局の「立法調査サービス」

国会議員からの依頼に基づき、政治、経済、社会、文化、科学技術等、広範な分野の国政課題について、根拠となるデータの収集や事実関係の調査から、論点整理、分析・評価まで、多岐にわたる調査を行います。また、現在・将来の国政課題について調査した成果を報告書などにまとめ、国会議員に提供しているほか、国立国会図書館ホームページで公開しています。